

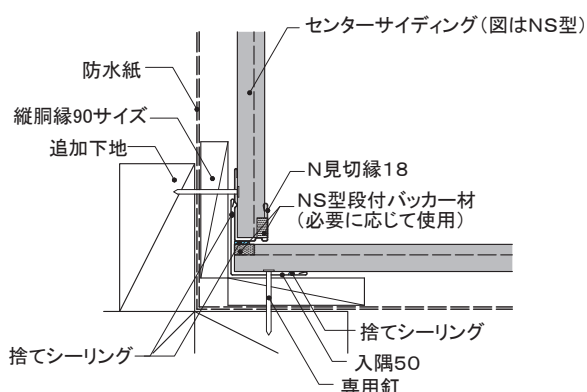
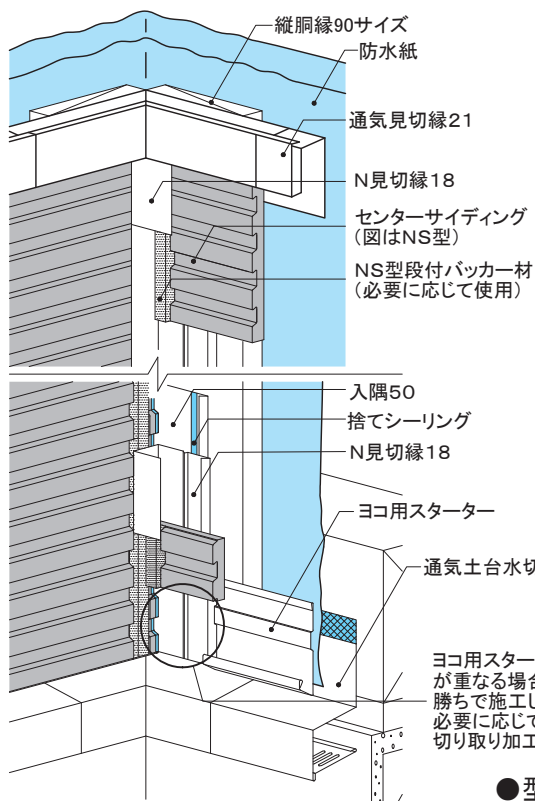
2 各部の基本納まり図

2-4 入隅部

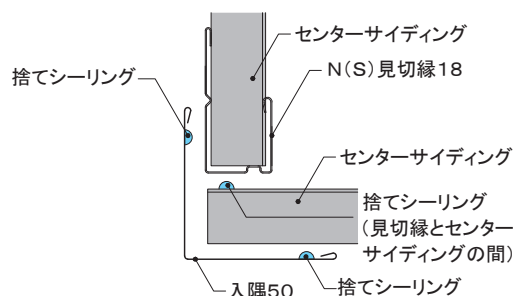
1) 基本納まり

- 横張り施工、縦張り施工ともに見切縁仕様が標準です。
- 胴縁の留付下地として必ず追加下地を入れます。
- 入隅部は多数の部材が施工される部位です。部材どうしは可能な限り重ならないように、部材を切り欠きながら施工します。
- 入隅50、見切縁は、木下地の場合は専用釘(φ2.3mm×38mm)で、鉄骨下地の場合は専用ビス(P35)で胴縁に留め付けます。入隅50は1m以下、見切縁は500mm以下で留め付けます。

①横張りの場合



●捨てシーリングを下図のように施工します。



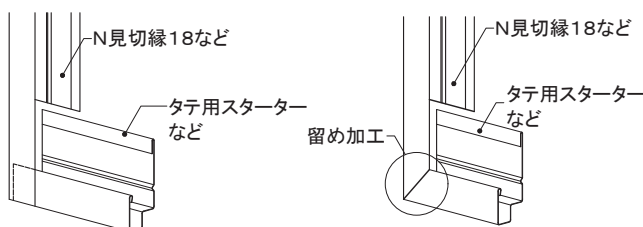
●型によって使用する部材が異なります。(縦張り)

型	横方向の見切縁※	縦方向の見切縁
M型、NS型、ST型、FN型	N端部カバー	N見切縁18
iシリーズ、F型、FB型、A型	端部カバー	S見切縁18

※(N)端部カバー以外の横方向の見切縁は、水抜き穴(φ10×300mm間隔)を現場加工してください。

型	横方向の見切縁※	縦方向の見切縁
M型、NS型、ST型、FN型	タテ用スターター	N見切縁18

縦材の見切縁と横材の端部カバーが重なる場合は、縦材の見切縁勝ちを基本とします。



②縦張りの場合

